

3つの落とし穴

2025. 11. 28

人を育てる。これは、我が人生における大きな課題の一つである。先輩として後輩を育てる。上司として部下を育てる。経営者として社員を育てる。校長として先生方を育てる。教師として生徒を育てる。親として子どもを育てる。

それぞれの課題に直面したとき、理解しておくべきことがある。それは、人を育てるという営みに忍び込む3つの落とし穴である。

一つは、相手を客観的な対象として見てしまう「対象化」である。もう一つは、相手を自分の望む方向に変えようとする「操作主義」である。さらには、相手の成長を目標達成の手段と考えてしまう「手段化」である。

職場で、会社で、家庭で、教えても育たないと悩むとき、多くの場合、我々は、この3つの落とし穴に陥っている。

では、この落とし穴に陥らないためには、どうすればよいのか。そのためには、まず、一つの覚悟を決めることである。それは、人を育てるとは、己を育てること。その覚悟を定めたとき、相手との間に、一体感や共感が生まれ、信頼が生まれ、成長そのものがすばらしい目標であるとの意識が生まれる。

そして、その覚悟を決めたならば、我々が為すべきことは3つある。

一つは、成長の場を創ること。一つは、成長の目標を見せること。一つは、成長の方法を伝えること。この3つを心を込め、祈りを込めて行うならば、人は誰もが自らの中にある生命力によって、成長していく。

中学校の部活動に行っている。行っているといっても、週に1回、土曜日ぐらいしか指導できる時間はない。その短い時間の中で、選手たちをいかに成長させるかを考えている。技術的なものもあるが、人間としての成長を一番に据えている。

顧問時代のように、毎日、テニスコートに行ければ、やり方も違ってくる。選手たちと接する時間は限られている。そうになると、何を話すか。その言葉が重要になってくる。この言葉がむずかしい。きっと、3つの落とし穴に陥ってしまうと、うまくいかないのである。選手たちの心に響かないのである。

指導者は、常に、落とし穴に陥っていないか、自らを振り返る必要がある。選手たちのおかげで自分は成長できている。そう思いながら、どんな言葉かけをしていくか、考えていきたい。